

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更									
フリガナ設置者	ガクコリジツン トキョウノキョウガク									
フリガナ大学の名称	トキョウノキョウガク									
大学本部の位置	東京都世田谷区桜丘1丁目1番地1号									
大学の目的	本大学は、その伝統及び私立大学の特性を活かしつつ、教育基本法の精神に則り、生命科学、環境科学、情報科学、生物産業学等を含む広義の農学の理論及び応用を教授し、有能な人材を育成すると共に、前記の学術分野に関する研究及び研究者の養成をなすことを使命とする。									
新設学部等の目的	「実学主義」の理念を基に国内外の食と農が抱える課題の解決に向けて高度な研究成果を上げ、植物生産学、食環境科学、食農政策、食農教育といった国際食農科学分野の先導的な研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力を修得させること教育研究上の目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	国際食料農業科学研究科 [Graduate School of International Food and Agricultural Science] 国際食農科学専攻 (D) [Department of International Food and Agricultural Science]	3年	2人	—人	6人	博士 (農学) 【Doctor of Philosophy in Agricultural Science】	令和5年4月	東京都世田谷区桜丘1-1-1		
計		2	—	6				【基礎となる学部】 国際食料情報学部 国際食農科学科 国際食料農業科学研究科 国際食農科学専攻 (M)		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	生命科学研究科 分子生命化学専攻 (D) (3) (令和4年4月届出) 生命科学研究科 分子微生物学専攻 (D) (3) (令和4年4月届出) 地域環境科学研究科 地域創成科学専攻 (D) (2) (令和4年4月届出) 令和5年4月名称変更予定 国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科→アグリビジネス学科									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	国際食農科学専攻 (D)	6科目	3科目	1科目	10科目	18単位				
教員の組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設	国際食料農業科学研究科 国際食農科学専攻 (D)	人	人	人	人	人	人	人	
			5	5	0	1	11	0	2	
			(5)	(5)	(0)	(1)	(11)	(0)	(2)	
			4	5	0	1	10	0	3	
			(4)	(5)	(0)	(1)	(10)	(0)	(3)	
	既設	生命科学研究科 分子生命化学専攻 (D)	5	5	0	0	10	0	3	
			(5)	(5)	(0)	(0)	(10)	(0)	(3)	
			9	2	0	0	11	0	1	
分	地域環境科学研究科 地域創成科学専攻 (D)	(9)	(2)	(0)	(0)	(11)	(0)	(1)		
		計	23	17	0	2	42	0	—	
		(23)	(17)	(0)	(2)	(42)	(0)	(—)		
既設	農学研究科 農学専攻 (D)	13	5	0	0	18	0	3		
		(13)	(5)	(0)	(0)	(18)	(0)	(3)		
		11	3	0	0	14	0	4		
		(11)	(3)	(0)	(0)	(14)	(0)	(4)		
分	動物科学専攻 (D)	11	2	0	1	14	0	1		
		(11)	(2)	(0)	(1)	(14)	(0)	(1)		
分	バイオセラピー学専攻 (D)	11	1	0	0	12	0	2		
		(11)	(1)	(0)	(0)	(12)	(0)	(0)		

教 員 組 織 の 概 要	既 設	醸造学専攻 (D)	8 (8)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	1 (1)	
		食品安全健康学専攻 (D)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	1 (1)	
		食品栄養学専攻 (D)	12 (12)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	4 (4)	
		生命科学研究所 バイオサイエンス専攻 (D)	9 (9)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	1 (1)	
		地域環境科学研究所 林学専攻 (D)	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	2 (2)	
		農業工学専攻 (D)	11 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)	
		造園学専攻 (D)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	3 (3)	
		国際食料農業科学研究科 国際農業開発学専攻 (D)	10 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	2 (2)	
		農業経済学専攻 (D)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	2 (2)	
		国際アグリビジネス学専攻 (D)	8 (8)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	2 (2)	
		生物産業学研究科 生物産業学専攻 (D)	29 (29)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	0 (0)	
		計	169 (169)	60 (60)	0 (0)	1 (1)	230 (230)	0 (0)	— (—)	
		合計	192 (192)	77 (77)	0 (0)	3 (3)	272 (272)	0 (0)	— (—)	
		教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計	
事 務 職 員			151人 (151人)		9人 (9人)		160人 (160人)			
技 術 職 員			21人 (21人)		5人 (5人)		26人 (26人)			
図 書 館 専 門 職 員			5人 (5人)		1人 (1人)		6人 (6人)			
そ の 他 の 職 員			1人 (1人)		7人 (7人)		8人 (8人)			
計		178人 (178人)		22人 (22人)		200人 (200人)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	354,079.78㎡	0㎡		15,350.76㎡		369,430.54㎡			
	運 動 場 用 地	31,147.98㎡	30,935.81㎡		6,453.99㎡		68,537.78㎡			
	小 計	385,227.76㎡	30,935.81㎡		21,804.75㎡		437,968.32㎡			
	そ の 他	2,666,435.56㎡	0㎡		0㎡		2,666,435.56㎡			
	合 計	3,051,663.32㎡	30,935.81㎡		21,804.75㎡		3,104,403.88㎡			
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
	219,689.36㎡ (219,689.36㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		219,689.36㎡ (219,689.36㎡)				
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設				
	101室	80室	712室	8室 (補助職員0人)		0室 (補助職員0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 国際食農科学専攻 (D)			室 数 14 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	○大学全体での共用分205,651 [33,944] ○学術雑誌・視聴 覚資料は大学全体 の数 ○標本 学部単位での特定 不能なため、大学 全体の数		
	国際食農科学専攻	362,280 [43,629] (346,239 [42,529])	17,159 [9,301] (17,159 [9,301])	7,327 [7,115] (7,327 [7,115])	7,834 (7,639)	544 (544)	33,778 (33,778)			
	計	362,280 [43,629] (346,239 [42,529])	17,159 [9,301] (17,159 [9,301])	7,327 [7,115] (7,327 [7,115])	7,834 (7,639)	544 (544)	33,778 (33,778)			
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	8,026.19㎡		1,383		1,162,296					
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体	
	10,371.27㎡		野 球 場 2 面 テニスコート4面							

経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位で算出 不能なため、学部 との合計
		教員1人当り研究費等		368千円	368千円	368千円	—	—	—	
		共同研究費等		5,377千円	5,377千円	5,377千円	—	—	—	
		図書購入費		253千円	253千円	253千円	—	—	—	
	設備購入費		1,498千円	504千円	504千円	504千円	—	—	—	
学生1人当り 納付金	第1年次		第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,540.6千円		1,300.6千円	1,350.6千円	—千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常費補助金収入、寄付金収入、手数料収入等						
既設 大学等 の 状 況	大学の名称	東京農業大学大学院								
	学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
	農学研究科	年	人	年次 人	人		倍			
	博士前期課程						1.17			
	農学専攻	2	14	—	28	修士（農学）	0.99	昭和28年度	神奈川県厚木市船 子1737	
	動物科学専攻	2	12	—	24	修士（農学）	1.25	昭和61年度	同上	
	生物資源開発学専攻	2	10	—	20	修士（農学）	1.40	令和4年度	同上	
	デザイン農学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	1.12	令和4年度	同上	
	バイオセラピー学専攻	2	—	—	—	修士（農学）	—	平成22年度	同上	
	博士後期課程						0.40			
	農学専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.33	昭和37年度	同上	
	動物科学専攻	3	4	—	12	博士（農学）	0.50	平成2年度	同上	
	バイオセラピー学専攻	3	3	—	9	博士（農学）	0.44	平成24年度	同上	
	応用生物科学研究科									
	博士前期課程						1.02			
	農芸化学専攻	2	30	—	60	修士（農学）	1.08	令和2年度	東京都世田谷区桜 丘1-1-1	
	醸造学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	1.12	令和2年度	同上	
	食品安全健康学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	0.87	令和2年度	同上	
	食品栄養学専攻	2	6	—	12	修士（農学）	0.91	令和2年度	同上	
	博士後期課程						0.22			
	農芸化学専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.20	令和2年度	同上	
	醸造学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	0.16	令和2年度	同上	
	食品安全健康学専攻	3	3	—	9	博士（農学）	0.22	令和2年度	同上	
	食品栄養学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	0.33	令和2年度	同上	
	生命科学研究所									
	博士前期課程						1.79			
	バイオサイエンス専攻	2	30	—	60	修士（農学）	1.66	令和3年度	東京都世田谷区桜 丘1-1-1	
	修士課程									
	分子生命化学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	1.92	令和3年度	同上	
	分子微生物学専攻	2	20	—	40	修士（農学）	1.87	令和3年度	同上	
	博士後期課程						0.10			
	バイオサイエンス専攻	3	5	—	15	博士（農学）	0.10	令和3年度	同上	
	地域環境科学研究科									
	博士前期課程						1.26			
	林学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	1.06	令和3年度	東京都世田谷区桜 丘1-1-1	
	農業工学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	1.37	令和3年度	同上	
	造園学専攻	2	10	—	20	修士（農学）	1.35	令和3年度	同上	
	修士課程									
	地域創成科学専攻	2	6	—	12	博士（農学）	1.24	令和3年度	同上	
	博士後期課程						0.83			
	林学専攻	3	8	—	24	博士（農学）	1.00	令和3年度	同上	
	農業工学専攻	3	8	—	24	博士（農学）	1.25	令和3年度	同上	
	造園学専攻	3	10	—	30	博士（農学）	0.25	令和3年度	同上	

令和4年4月学生
募集停止

既設大学等の状況	国際食料農業科学研究科 博士前期課程						0.83			
	国際農業開発学専攻	2	18	—	36	修士（農学）	0.96	令和3年度	東京都世田谷区桜丘1-1-1	
	農業経済学専攻	2	8	—	16	修士（農学）	0.43	令和3年度	同上	
	国際アグリビジネス学専攻	2	10	—	20	修士（農学）	0.75	令和3年度	同上	
	修士課程									
	国際食農科学専攻	2	7	—	14	博士（農学）	1.06	令和3年度	同上	
	博士後期課程						1.66			
	国際農業開発学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	3.25	令和3年度	同上	
	農業経済学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	0.50	令和3年度	同上	
	国際アグリビジネス学専攻	3	2	—	6	博士（農学）	1.25	令和3年度	同上	
	生物産業学研究科 博士前期課程							1.00		
	北方圏農学専攻	2	7	—	14	修士（農学）	0.78	平成22年度	北海道網走市八坂196	
	海洋水産学専攻	2	5	—	10	修士（農学）	0.80	平成22年度	同上	
	食香粧化学専攻	2	5	—	10	修士（農学）	1.90	平成22年度	同上	
	自然資源経営学専攻	2	3	—	6	修士（経営学）	0.33	平成22年度	同上	
博士後期課程							0.29			
生物産業学専攻	3	8	—	24	博士（農学又は経営学）	0.29	平成7年度	同上		
大学等の状況	大学の名称	東京農業大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	農学部						1.04			
	農学科	4	170	—	680	学士（農学）	1.04	昭和24年度	神奈川県厚木市船子1737	
	動物科学科	4	140	—	560	学士（農学）	1.04	昭和24年度	同上	
	生物資源開発学科	4	125	—	500	学士（農学）	1.04	平成30年度	同上	
	デザイン農学科	4	123	—	492	学士（農学）	1.04	平成30年度	同上	
	応用生物科学部						1.04			
	農芸化学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.05	平成10年度	東京都世田谷区桜丘1-1-1	
	醸造科学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.07	平成10年度	同上	
	食品安全健康学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.04	平成26年度	同上	
	栄養科学科	4	120	—	480	学士（農学）	1.04	平成10年度	同上	
	生命科学部						1.04			
	バイオサイエンス学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.04	平成29年度	東京都世田谷区桜丘1-1-1	
	分子生命化学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.02	平成29年度	同上	
	分子微生物学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.08	平成29年度	同上	
	地域環境科学部						1.03			
	森林総合科学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.03	平成10年度	東京都世田谷区桜丘1-1-1	
	生産環境工学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.02	平成10年度	同上	
	造園科学科	4	130	—	520	学士（農学）	1.03	平成10年度	同上	
	地域創成科学科	4	100	—	400	学士（農学）	1.05	平成29年度	同上	
	国際食料情報学部						1.04			
	国際農業開発学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.03	平成10年度	東京都世田谷区桜丘1-1-1	
	食料環境経済学科	4	190	—	760	学士（農学）	1.03	平成10年度	同上	
	国際バイオビジネス学科	4	150	—	600	学士（農学）	1.06	平成10年度	同上	
	国際食農科学科	4	110	—	440	学士（農学）	1.05	平成29年度	同上	
	生物産業学部						1.02			
北方圏農学科	4	91	—	373	学士（農学）	1.03	平成元年度	北海道網走市八坂196番地	令和2年度入学定員減（▲9） 令和2年度編入学定員減（▲10）	
海洋水産学科	4	91	—	353	学士（農学）	1.05	平成18年度	同上	令和2年度入学定員増（11名）	
食香粧化学科	4	91	—	353	学士（農学）	0.98	平成元年度	同上	令和2年度入学定員増（11名）	
自然資源経営学科	4	90	—	360	学士（経営学）	1.02	平成元年度	同上	令和2年度編入学定員減（▲12） 令和2年度編入学定員減（▲5）	

既設大学等の状況	大学の名称	東京情報大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	総合情報学研究科 博士前期課程	年	人	年次人	人		0.63		千葉県千葉市若葉区御成台4丁目1番地
	総合情報学専攻	2	15	—	30	修士（総合情報学）	0.63	平成4年度	
総合情報学研究科 博士後期課程						0.22		同上	
総合情報学専攻	3	3	—	9	博士（総合情報学）	0.22	平成11年度		
既設大学等の状況	大学の名称	東京情報大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	総合情報学部	年	人	年次人	人		1.16		千葉県千葉市若葉区御成台4丁目1番地
	総合情報学科	4	400	3年次10	1,620	学士（総合情報学）	1.16	平成25年度	
看護学部						0.84		同上	
看護学科	4	100	—	400	子工（看護学）	0.84	平成29年度		
附属施設の概要	名称	目的					設置年月		
	1 図書館 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	学生の学習・研究活動の支援施設					平成26年4月		
	農学部図書館 (神奈川県厚木市船子1737)	学生の学習・研究活動の支援施設					平成10年4月		
	生物産業学部図書館 (北海道網走市八坂196)	学生の学習・研究活動の支援施設					平成元年4月		
	2 農学部の附属施設								
	伊勢原農場 (神奈川県伊勢原市三ノ宮前畑1499-1 他 (79,910,22㎡))	作物・園芸・環境緑化等の研究・実習					平成24年4月		
	富士農場 (静岡県富士宮市麓422)	畜産実習を中心とした実習教育 (323,260.00㎡)					昭和17年		
	植物園 (神奈川県厚木市船子1737)	有用植物の収集・保存・展示					昭和22年		
	生き物連携センター (神奈川県厚木市船子1737)	人と動植物のかかわりを追求する教育・研究					平成19年4月		
	電子顕微鏡室 (神奈川県厚木市船子1737)	ウイルス・微生物等の微細構造解析					平成10年4月		
3 応用生物科学部の附属施設									
食品加工技術センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	食品加工に関する実践的教育・研究					平成10年4月			
4 生命科学部の附属施設									
高次生命機能解析センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	遺伝子組換え、栄養、生理、遺伝、発生など生命科学分野の研究					平成21年4月			
5 地域環境科学部の附属施設									
奥多摩演習林 (東京都西多摩郡奥多摩町氷川2137 (653,016.00㎡))	森林のしくみ、育成方法、林業機械の実習等					昭和53年			
6 国際食料情報学部の附属施設									
宮古亜熱帯農場 (沖縄県宮古島市城辺字福里72-2) (98,262.00㎡)	熱帯農業の実習教育・試験研究					昭和63年			
7 生物産業学部の附属施設									
網走寒冷地農場 (北海道網走市音根内59-8) (432,174.00㎡)	寒冷地大規模農場の実習教育					昭和57年			
オホーツク臨海研究センター (北海道網走市能取港町1-1-2) (4,656.60㎡)	海洋動植物の生態・生育・繁殖に関する研究					平成18年4月			
8 農生命科学研究所 (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	全学的な研究戦略の推進・実践					平成12年4月			
9 グローバル連携センター (東京都世田谷区桜丘1-1-1)	海外研究機関との交流ならびに協力連携					平成18年4月			
10 「食と農」の博物館 (東京都世田谷区上用賀2-4-28)	教育・研究の成果を広く社会に公開					平成16年4月			

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要															
(国際食料農業科学研究科 国際食農科学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
国際食料農業科学研究科 共通科目	研究倫理後期特講	1前		1		○								兼2	集中
	インターンシップ	2前		1				○	5	5		1			集中
	小計(2科目)	—	0	2	0	—	—	—	5	5	0	1	0	兼2	
専攻科目 基礎科目	研究発表手法論	1後		2		○			5						集中
	小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	—	5	0	0	0	0	兼0	
	植物生産学後期特論	1前		2		○			1						
	食環境科学後期特論	1前		2		○			1						
	食農政策後期特論	1前		2		○			1						
食農教育後期特論	1前		2		○			2							
小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	5	0	0	0	0	兼0		
研究指導	特別研究指導Ⅰ	1通	4				○		5	4					
	特別研究指導Ⅱ	2通	4				○		5	4					
	特別研究指導Ⅲ	3通	4				○		5	4					
	小計(3科目)	—	12	0	0	—	—	—	5	4	0	0	0	兼0	
合計(10科目)		—	12	12	0	—	—	—	5	5	0	1	0	兼2	
学位又は称号		博士(農学)			学位又は学科の分野			農学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
【修了要件】 3年以上在学し、所定の授業科目について18単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、当該研究科が行う博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 【履修要件】 必修科目12単位、選択必修科目2単位(特論科目の中から主たる研究領域を選択)、選択科目4単位の合計18単位以上を修得すること。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要				
(国際食料農業科学研究科 国際食農科学専攻 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
国際食料農業科学 研究科共通科目	研究倫理後期特講	<p>学術研究者として研究を行う上で、高度な研究倫理を体得することは非常に重要である。将来独立した学術研究者として必要な知識と研究倫理指導を行う上での注意点などを修得することを目的とする。</p> <p>具体的には、まず学術論文の著作権とオーサーシップ、盗用等の事例や論文作成や著作物の引用において注意すべき事項について学修する。</p> <p>続いて研究資金の目的・趣旨を十分に踏まえ、研究の進行と経費の使用手続きにおける不正の防止について学修する。</p> <p>次に研究データの重要性を理解し、研究データの収集・処理・保管に関する注意事項や好ましくない行為を防止するための方法や人権・環境に関する配慮について学修する。</p> <p>最後に利益相反、個人情報の取扱、社会への責任について学修するとともに学術研究の社会的意義について理解を深める。</p>	集中	
	インターンシップ	<p>インターンシップとは、学生の将来のキャリア・プランに関連して、大学院在学中に一定期間を企業などで就学体験することによって、仕事の本質を理解し、さらなるキャリア・プランの構築を図るものである。本科目は、食料農業科学分野の実際の研究の職場において就業体験を積むことにより、先導的な研究者・教育者あるいは専門家として独立できる能力の発揮などに関する自身の適性を認識し、職業観を深め、職業選択に役立たせることを目的とする。</p>	集中	
専攻科目	基礎科目	研究発表手法論	<p>研究発表手法論は、学会等での口頭あるいはポスター発表を筆頭筆者として行う方法を修得する。学会の個別報告の原稿作成、パワーポイント活用などについて講義を展開する。到達目標は、学会等で発表できるようになることである。</p>	集中
	特論科目	植物生産学後期特論	<p>本講義は、植物生産学にかかわる最新の動向を英語論文を用いて教授する。作物栽培技術や農法にかかわる応用的理解を高め、持続的生産に必要な事項を学ぶ。特に、雑草や栽培植物の遺伝的多様性、農生態系における生物間相互作用による創発特性、種子や果実の品質向上のための生理的解析と技術開発について、事例を紹介しながら原理と応用を修得する。また、持続的食料システムのための、生物文化多様性を維持し向上させるため食農技術についても教授する。</p>	

専攻科目	特論科目	食環境科学後期特論	<p>捕獲・収穫された動・植物性食品の多くには、栄養性と嗜好性および保存性を向上させるために様々な加工技術を組み合わせて加工を施す。本講義は、食品の加工および栄養、機能性にかかわる技術的、食品・栄養学的側面について、食環境科学の観点から教授する。到達目標は、食育の観点から食の安全安心や食の重要性、食文化など食農技術の重要性、食品に含まれる機能性成分の役割、食糧資源の成分特性や加工により生じた生成物の特性および食品中の栄養成分の持つ機能性について理解する。</p> <p>食品の持つ3次機能、すなわち生体機能調節をになう機能性成分についての化学、相互作用、吸収や体内における動きおよび機能性発現機構について教授する。特に近年注目されてきている整腸機能、血圧・血糖値・中性脂質抑制機能、骨・歯の健康を増進する機能などを取り上げ、さらに最新の機能についても教授する。</p>	
		食農政策後期特論	<p>本講義では、日本をはじめとする各国の農政の動向について巨視的に捉える研究視角に基づき、農業経営に関わる制度、また食品の生産や流通に関する法律や施策の内容の現状と歴史的変遷について教授する。またグローバリゼーションに伴うこれらの政策の変化について教授し、グローバリゼーションが各国の農業経営や農村生活に与える影響について批判的に理解するための諸学説および社会的な活動の展開について教授する。これらを通じて、博士論文等を視野に事例調査研究等を実施する際に検討すべき、政策に関する基本的な事項と社会的課題を把握するアプローチについて教授し、各自の調査研究に応用する。</p>	
		食農教育後期特論	<p>本講義では、まず前半で食と農に関わる自然および社会環境、さらに教育と学習について高度な理解を得るため、教育学、認知科学、普及学、コミュニケーション論、実践コミュニティ論などに関わる最新動向について教授する。このため、コミュニケーション研究の中から、イノベーションの普及、社会的共通資本などを取り上げ、各自の研究、現地調査に活用する。後半では食農教育に焦点を当て、現在の社会的課題に対して今後どの様に取り組むべきかを検討する為、食育基本法及び食育推進基本計画に関わる内容の検討、さらに国内外における食農教育の取り組みや関わる課題、及びそれら事例研究のアプローチについて教授する。以上を踏まえ、国や地域が抱えている食や農を取り巻く課題解決に対する食農教育の重要性を大学院生自らが理解し、さらに研究として応用できる見方や知識を修得するとともに、科学的根拠を持って食農教育の有用性を示す能力を養う。</p>	

研究指導科目	特別研究指導 I	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、教員が博士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。特別研究指導 I～III は、博士論文が完成するまでのプロセスを3段階に分ける。</p> <p>特別研究指導 I は、1年次に履修させる。到達目標は、指導課題に沿ったテーマを決定し、研究計画書を作成する事である。</p> <p>(1 大久保 研治 (指導教員)) (食農教育論)</p> <p>食農教育の中でも食農環境と食農教育に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(2 上岡 美保 (指導教員)) (食料経済学)</p> <p>食農教育の中でも食料経済とフードシステムに関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(3 原 珠里 (指導教員)) (農村社会学)</p> <p>食農政策の中でも農村社会のソーシャル・キャピタルや農村女性起業に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(4 宮浦 理恵 (指導教員)) (農生態学)</p> <p>世界の栽培植物および雑草の生物学的特性を、社会・文化的な人の営みを形質形成要因のひとつととらえ、地域の自然環境のみならず、生産技術や農法、調理・加工法の情報を収集しながら食農技術的に解明するための手法を教授する。食と農の文化複合として進む植物の適応進化と人とのかかわりを解析・考察できる力を育成するために、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(5 山内 淳 (指導教員)) (栄養食品科学)</p> <p>食環境の中でも食品の一次、二次、三次機能に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(7 篠原 卓 (指導補助教員)) (園芸学)</p> <p>園芸作物の果実や種子の生理機能を計測する手法、品質を評価する手法、およびそれらの生産環境の測定法を教え、得られたデータの解析方法のほか、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導を補助する。</p>	
--------	----------	---	--

<p style="text-align: center;">研究 指導 科目</p>		<p>(8 谷岡 由梨 (指導補助教員)) (食品学) 栄養学・食品学・生化学・分子生物学の複合的な手法を用いて、食品に含まれる栄養成分や疾病予防因子の評価手法を教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導を補助する。</p> <p>(9 原 温久 (指導補助教員)) (農業経営学) 食農政策の中でも農業経営の改善やマーケティング、消費者行動に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、アンケート調査法、計量分析手法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p> <p>(10 望月 洋孝 (指導補助教員)) (農業経済学) 食農教育の中でも農村地域の活性化や農業女子プロジェクトの普及に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、聞き取り調査法、農村調査法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p>	
---	--	---	--

<p>研究指導科目</p>	<p>特別研究指導Ⅱ</p>	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、教員が博士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。特別研究指導Ⅰ～Ⅲは、博士論文が完成するまでのプロセスを3段階に分ける。</p> <p>特別研究指導Ⅱは、2年次に履修させる。到達目標は、指導課題に沿って最新の知見や技術に関する情報の収集・検討に基づく、研究のテーマと最適化、並びに指導課題に沿って決定した研究テーマで博士論文の骨子の作成である。</p> <p>(1 大久保 研治 (指導教員)) (食農教育論)</p> <p>食農教育の中でも食農環境と食農教育に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文をとりまとめる能力を養う。2年次には合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。なお批判的読解力の向上を図り、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(2 上岡 美保 (指導教員)) (食料経済学)</p> <p>食農教育の中でも食料経済とフードシステムに関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(3 原 珠里 (指導教員)) (農村社会学)</p> <p>食農政策の中でも農村社会のソーシャル・キャピタルや農村女性起業に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(4 宮浦 理恵 (指導教員)) (農生態学)</p> <p>世界の栽培植物および雑草の生物学的特性を、社会・文化的な人の営みを形質形成要因のひとつととらえ、地域の自然環境のみならず、生産技術や農法、調理・加工法の情報を収集しながら食農技術学的に解明するための手法を教授する。食と農の文化複合として進む植物の適応進化と人とのかかわりを解析・考察できる力を育成するために、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(5 山内 淳 (指導教員)) (栄養食品科学)</p> <p>食環境の中でも食品の一次、二次、三次機能に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(7 篠原 卓 (指導補助教員)) (園芸学)</p> <p>園芸作物の果実や種子の生理機能を計測する手法、品質を評価する手法、およびそれらの生産環境の測定法を教え、得られたデータの解析方法のほか、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導を補助する。</p>	
---------------	----------------	---	--

<p style="text-align: center;">研究指導科目</p>		<p>(8 谷岡 由梨 (指導補助教員)) (食品学) 栄養学・食品学・生化学・分子生物学の複合的な手法を用いて、食品に含まれる栄養成分や疾病予防因子の評価手法を教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導を補助する。</p> <p>(9 原 温久 (指導補助教員)) (農業経営学) 食農政策の中でも農業経営の改善やマーケティング、消費者行動に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、アンケート調査法、計量分析手法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p> <p>(10 望月 洋孝 (指導補助教員)) (農業経済学) 食農教育の中でも農村地域の活性化や農業女子プロジェクトの普及に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、聞き取り調査法、農村調査法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p>	
---	--	---	--

研究指導科目	特別研究指導Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>本専攻では、教員が、博士論文の作成に必要な研究の計画・実施・結果の評価・発表・論文作成など各段階について指導する。特別研究指導Ⅰ～Ⅲは、博士論文が完成するまでのプロセスを3段階に分ける。</p> <p>特別研究指導Ⅲは、3年次に履修させる。到達目標は、博士論文の完成と成果の発表である。</p> <p>(1 大久保 研治 (指導教員)) (食農教育論)</p> <p>食農教育の中でも食農環境と食農教育に関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(2 上岡 美保 (指導教員)) (食料経済学)</p> <p>食農教育の中でも食料経済とフードシステムに関する内外の研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(3 原 珠里 (指導教員)) (農村社会学)</p> <p>食農政策の中でも農村社会のソーシャル・キャピタル、農業の多角化における女性の役割に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成にむけた研究能力を身につけるよう指導する。</p> <p>(4 宮浦 理恵 (指導教員)) (農生態学)</p> <p>世界の栽培植物および雑草の生物学的特性を、社会・文化的な人の営みを形質形成要因のひとつととらえ、地域の自然環境のみならず、生産技術や農法、調理・加工法の情報を収集しながら食農技術学的に解明するための手法を教授する。食と農の文化複合として進む植物の適応進化と人とのかかわりを解析・考察できる力を育成するために、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成に向けて指導する。</p> <p>(5 山内 淳 (指導教員)) (栄養食品科学)</p> <p>食環境の中でも食品の一次、二次、三次機能に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成に向けて指導する。</p> <p>(7 篠原 卓 (指導補助教員)) (園芸学)</p> <p>園芸作物の果実や種子の生理機能を計測する手法、品質を評価する手法、およびそれらの生産環境の測定法を教え、得られたデータの解析方法のほか、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成に向けて指導を補助する。</p>	
--------	---------	--	--

<p style="text-align: center;">研究 指導 科目</p>		<p>(8 谷岡 由梨 (指導補助教員)) (食品学) 栄養学・食品学・生化学・分子生物学の複合的な手法を用いて、食品に含まれる栄養成分や疾病予防因子の評価手法を教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。また、学術論文を批判的に読む力をつけ、博士論文の完成に向けて指導を補助する。</p> <p>(9 原 温久 (指導補助教員)) (農業経営学) 食農政策の中でも農業経営の改善やマーケティング、消費者行動に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、アンケート調査法、計量分析手法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p> <p>(10 望月 洋孝 (指導補助教員)) (農業経済学) 食農教育の中でも農村地域の活性化や農業女子プロジェクトの普及に関する研究論文を検索し、それぞれの研究テーマに関連するいくつかの論文を読解し、とりまとめる能力を養うことを目標とする。合わせて、内外の研究者との議論の機会に、内容を理解し適切な質疑応答のできる能力を身につけることも目標とする。情報収集能力、調査能力および論文作成能力の向上を目標として、論文作成法、聞き取り調査法、農村調査法などについて教え、論文作成のための情報収集段階ごとにプレゼンテーションの仕方について指導を補助する。</p>	
---	--	---	--

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人東京農業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

東京農業大学大学院 農学研究科	14	—	28
農学専攻(M)	12	—	24
動物科学専攻(M)	10	—	20
生物資源開発学専攻(M)	8	—	16
デザイン農学専攻(M)	5	—	15
農学専攻(D)	4	—	12
動物科学専攻(D)	3	—	9
バイオセラピー学専攻(D)			
応用生物科学研究科	30	—	60
農芸化学専攻(M)	20	—	40
醸造学専攻(M)	20	—	40
食品安全健康学専攻(M)	6	—	12
食品栄養学専攻(M)	5	—	15
農芸化学専攻(D)	2	—	6
醸造学専攻(D)	3	—	9
食品安全健康学専攻(D)	2	—	6
食品栄養学専攻(D)			
生命科学研究科	30	—	60
バイオサイエンス専攻(M)	20	—	40
分子生命化学専攻(M)	20	—	40
分子微生物学専攻(M)	5	—	15
バイオサイエンス専攻(D)			
地域環境科学研究科	8	—	16
林学専攻(M)	8	—	16
農業工学専攻(M)	10	—	20
造園学専攻(M)	6	—	12
地域創成科学専攻(M)	2	—	6
林学専攻(D)	2	—	6
農業工学専攻(D)	2	—	6
造園学専攻(D)			

→

令和5年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

東京農業大学大学院 農学研究科	14	—	28
農学専攻(M)	12	—	24
動物科学専攻(M)	10	—	20
生物資源開発学専攻(M)	8	—	16
デザイン農学専攻(M)	5	—	15
農学専攻(D)	4	—	12
動物科学専攻(D)	3	—	9
バイオセラピー学専攻(D)			
応用生物科学研究科	30	—	60
農芸化学専攻(M)	20	—	40
醸造学専攻(M)	20	—	40
食品安全健康学専攻(M)	6	—	12
食品栄養学専攻(M)	5	—	15
農芸化学専攻(D)	2	—	6
醸造学専攻(D)	3	—	9
食品安全健康学専攻(D)	2	—	6
食品栄養学専攻(D)			
生命科学研究科	30	—	60
バイオサイエンス専攻(M)	20	—	40
分子生命化学専攻(M)	20	—	40
分子微生物学専攻(M)	5	—	15
バイオサイエンス専攻(D)	3	—	9
分子生命化学専攻(D)	3	—	9
分子微生物学専攻(D)			
地域環境科学研究科	8	—	16
林学専攻(M)	8	—	16
農業工学専攻(M)	10	—	20
造園学専攻(M)	6	—	12
地域創成科学専攻(M)	2	—	6
林学専攻(D)	2	—	6
農業工学専攻(D)	2	—	6
造園学専攻(D)	2	—	6
地域創成科学専攻(D)			

変更の事由

課程の変更(届出)
課程の変更(届出)

課程の変更(届出)

国際食料農業科学研究所			
国際農業開発学専攻(M)	18	—	36
農業経済学専攻(M)	8	—	16
国際アグリビジネス学専攻(M)	10	—	20
国際食農科学専攻(M)	7	—	14
国際農業開発学専攻(D)	2	—	6
農業経済学専攻(D)	2	—	6
国際アグリビジネス学専攻(D)	2	—	6
生物産業学研究所			
北方圏農学専攻(M)	7	—	14
海洋水産学専攻(M)	5	—	10
食香粧化学専攻(M)	5	—	10
自然資源経営学専攻(M)	3	—	6
生物産業学専攻(D)	8	—	24
計	334		717

国際食料農業科学研究所			
国際農業開発学専攻(M)	18	—	36
農業経済学専攻(M)	8	—	16
国際アグリビジネス学専攻(M)	10	—	20
国際食農科学専攻(M)	7	—	14
国際農業開発学専攻(D)	2	—	6
農業経済学専攻(D)	2	—	6
国際アグリビジネス学専攻(D)	2	—	6
国際食農科学専攻(D)	2	—	6
生物産業学研究所			
北方圏農学専攻(M)	7	—	14
海洋水産学専攻(M)	5	—	10
食香粧化学専攻(M)	5	—	10
自然資源経営学専攻(M)	3	—	6
生物産業学専攻(D)	8	—	24
計	344		747

6 課程の変更(届出)

東京農業大学		3年次
農学部		
農学科	170	680
動物科学科	140	560
生物資源開発学科	125	500
テザイン農学科	123	492
応用生物科学部	3年次	
農芸化学科	150	600
醸造科学科	150	600
食品安全健康学科	150	600
栄養科学科	120	480
生命科学部	3年次	
バイオサイエンス学科	150	600
分子生命化学科	130	520
分子微生物学	130	520
地域環境科学部	3年次	
森林総合科学科	130	520
生産環境工学科	130	520
造園科学科	130	520
地域創成科学科	100	400
国際食料情報学部	3年次	
国際農業開発学科	150	600
食料環境経済学科	190	760
国際バイオビジネス学科	150	600
国際食農科学科	110	440
生物産業学部	3年次	
北方圏農学科	91	364
海洋水産学科	91	364
食香粧化学科	91	364
自然資源経営学科	90	360
計	2,991	11,964

↑

東京農業大学		3年次
農学部		
農学科	170	680
動物科学科	140	560
生物資源開発学科	125	500
テザイン農学科	123	492
応用生物科学部	3年次	
農芸化学科	150	600
醸造科学科	150	600
食品安全健康学科	150	600
栄養科学科	120	480
生命科学部	3年次	
バイオサイエンス学科	150	600
分子生命化学科	130	520
分子微生物学	130	520
地域環境科学部	3年次	
森林総合科学科	130	520
生産環境工学科	130	520
造園科学科	130	520
地域創成科学科	100	400
国際食料情報学部	3年次	
国際農業開発学科	150	600
食料環境経済学科	190	760
アグリビジネス学科	150	600
国際食農科学科	110	440
生物産業学部	3年次	
北方圏農学科	91	364
海洋水産学科	91	364
食香粧化学科	91	364
自然資源経営学科	90	360
計	2,991	11,964

名称変更

東京情報大学 総合情報学部 看護学部 看護学科	3年次	400	10	1,620
		100	-	400
計		500	10	2,020
東京情報大学大学院 総合情報学研究科 総合情報学専攻(M) 総合情報学専攻(D)		15	-	30
		3	-	9
計		18		39

→

東京情報大学 総合情報学部 総合情報学科 看護学部 看護学科	3年次	400	10	1,620
		100	-	400
計		500	10	2,020
東京情報大学大学院 総合情報学研究科 総合情報学専攻(M) 総合情報学専攻(D)		15	-	30
		3	-	9
計		18		39

→